

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

今回は、カトリック塩釜教会とカトリック東仙台教会が、2011年12月から宮城県塩釜市の伊保石仮設住宅集会所で継続的に行っている味噌造りについてご紹介します。

第53回伊保石仮設住宅味噌造り記録

カトリック東仙台教会 佐藤 定雄

10月4日、午後1時から塩釜市の伊保石仮設住宅で、53回目となる味噌造りを行った。今回は、塩釜教会と東仙台教会の信徒各4名、戸塚教会1名、社会福祉協議会の職員2名、そして仮設や復興住宅に入居している被災者13名での味噌造りとなった。

●「伊保石仮設住宅の現状」と塩釜市の復興住宅整備について

伊保石仮設住宅は、当初120世帯が入居。復興住宅への転居等で、現在65世帯が入居しているが、平成29年3月に閉鎖予定。

現在入居中の復興住宅は、伊保石復興住宅1戸建に31世帯、錦町復興住宅3・4・5階建3棟に40世帯が入居している。現在建設中の清水沢地区には、5階建3棟に約170世帯が入居予定で、北浜地区にも復興住宅建設計画がある。

●準備段階

10月4日当日は、東仙台教会が教会草刈のため、伊保石仮設住宅集会所に11時30分に到着。先に到着していた塩釜教会の皆さんが、前日に塩釜教会で作った煮豆、麴・塩等味噌造り材料を搬入。さらに会場では、床シート張り、椅子やテーブル、名札等も用意。塩釜教会の皆さんが準備してくださった昼食を全員そろっていただいた。今回はボリュームたっぷりの焼肉弁当とお茶。梨、ブドウ、リンゴ煮、イチジク煮など、デザートも美味しくいただいた。



●味噌造り

受付が始まり参加者は13名に留まったが、これは、魚市場のドット祭り(マグロ祭り)と坂病院の健康祭りが重なった結果。塩釜教会の教会委員長である溝田さんの挨拶、写真撮影、ストレッチ体操で体をほぐして、味噌造りを始める。皆さん味噌造りは慣れて、互いに隣同士和気あいあ

いに作業が進む。煮豆を潰し、麴と塩を混ぜてさらに潰し、煮汁を混入してまた潰しの作業を行い、約1時間で終了した。

●分かち合い

お菓子、暖かいお茶、富貴豆を食べながら「分かち合い」に入った。参加した1人は、草取りが大好きで、隣家もしてあげるが、膝も腰も痛くならないとのこと。

錦町復興住宅に入居した方は、カビも発生せず、快適で安心して過ごしているとのこと。また、仮設から復興住宅に転居された3名の方々が、同グループで仮設住宅での思い出を話された。

仮設住宅暮らしでの先の見えない不安と経験した複雑な心境は、時間の経過と共に癒され、復興住宅でたくましく生きる方たちが、仮設住宅味噌造りを心待ちしているのを知った。



～仮設住宅から復興住宅に転居された方の声～

- ・伊保石復興住宅に移って1年が過ぎる。仮設住宅入居中は、隣家のテレビやいびきの音がうるさく大変だったが、今は一戸建に入居できた。復興住宅入居抽選では、主人が要介護者ということで、優先入居が出来て嬉しかった。しかし、入居間もなく主人が他界。主人のお陰で今の生活が出来ている。引っ越しは、家具大半が湿気で使用出来ずに破棄し、家具等新たな購入は経済的負担であった。復興住宅入居後も、伊保石仮設住宅の味噌造りに参加出来て、とても幸せです。
- ・桂島出身で、家が流失。家財道具はもちろん、大事にしていた自家製の味噌も大樽で流され、今、味噌造りが出来るのがとても嬉しい。桂島で野菜作りの畑を耕したが、地震で自宅が危険地区に指定され、退去命令で伊保石仮設住宅に入居した。入居中は故郷が忘れがたく、桂島で週2回の農作業や気を紛らわすため仮設空地で畑を耕し、野菜作りを楽しんだ。仮設住宅集会所では、色々な集いがあるけれど、味噌造りが一番楽しかった。何よりも味噌造りの日は、仮設の人が大勢来て、皆さんとのお喋りが一番の楽しみ！
- ・仮設住宅では、やる事がなく、ブラブラ過ごす方も多いが、野菜作り指導でプランターに野菜作りを楽しむ方もいた。仮設住宅は、隣家の笑い声やテレビの音が気になったし、湿気対策も駄目。引っ越しは、家具の大半を捨てるなど、経済的負担があった。今は、錦町復興住宅に入居し、買い物が大変だが、交通も便利で、仮設住宅での味噌造りにも参加出来て、桂島音頭も唄えて幸せ。

余興に入り、芸達者の方が魚市場祭りでお休みだったため、塩釜教会の和賀さんの音頭で赤とんぼ、ふるさと、もみじ、桂島音頭、ぼけない音頭、炭坑節を全員で大きな声で歌い、笑顔のうちに散会した。